

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	地域課題に対応した市民主導によるコミュニティ空間計画に関する研究ーヨコハマ市民まち普請事業における市民主体の認識と空間実践ー
Title(English)	A Study on Community Space Planning Driven by Citizens in Response to Regional Issues -Citizens ' Awareness of Issues and Spatial Practices in Yokohama Shimin Machibushin Project-
著者(和文)	韓昌熹
Author(English)	Changhee Han
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12023号, 授与年月日:2021年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:那須 聖,室町 泰徳,真野 洋介,藤田 康仁,真田 純子
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12023号, Conferred date:2021/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第		号	学位申請者氏名		韓 昌熹	
論文審査 審査員		氏 名	職 名		氏 名	職 名	
	主査	那須 聖	准教授	審査員	藤田 康仁	准教授	
	審査員	室町 泰徳	准教授				
		真野 洋介	准教授				
		真田 純子	准教授				

論文審査の要旨（2000 字程度）

本論文は「地域課題に対応した市民主導によるコミュニティ空間計画に関する研究－ヨコハマ市民まち普請事業における市民主体の認識と空間実践－ A Study on Community Spaces Planning Driven by Citizens in Response to Regional Issues -Citizens' Awareness of Issues and Spatial Practices in Yokohama Shimin Machibushin Project-」と題し、以下の7章より構成されている。

第1章「序論」では、まず研究の背景として1980年代以降の日本のまちづくり活動とその環境を概観した上で、市民による公共空間の主体的活用や施設計画への市民参加の潮流を述べ、まちづくりに関わる環境整備に対する市民主導・参加の状況を述べている。さらに既存の様々なまちづくり活動と既往研究を踏まえた上で、市民によるまちづくりの中心的な環境としてコミュニティ空間を定義し、その実践において現状では個別の様々な試みがなされているものの、それらを相対的に比較検討し、計画内容を体系的に位置付ける試みが必要であることを述べている。その上で、市民主導の環境整備の先駆的・継続的な取り組みとしての「ヨコハマ市民まち普請事業」を研究対象と位置付け、本論文の目的が、市民によるまちづくり活動に寄与するコミュニティ空間の計画要件と整備の意義を明らかにすることであることを述べている。

第2章「地域課題とコミュニティ空間の性格」では、「ヨコハマ市民まち普請事業」に提案された提案の中で、滞在、交流、拠点などを目的としているコミュニティ空間に関する整備提案を対象とし、2005年から2019年までの176件の整備提案書から市民が認識した地域課題を典型的に明らかにするとともに、市民によるコミュニティ空間に対する提案内容の分析により、整備提案の物理的な範囲とコミュニティ空間の性格の類型を明らかにしている。

第3章「市民により整備されたコミュニティ空間の検討内容」では、まち普請により実現された12件のコミュニティ空間を対象として、それぞれの概要と特徴、地域課題を概観した上で、コミュニティ空間の企画から現在まで関わってきたコアメンバーへのヒアリング調査と現地調査に基づき、コミュニティ空間の計画段階での検討内容を整理している。その結果として、コミュニティ空間の検討が、室の水準においては必要性、多目的性、使いやすさ、安全性、雰囲気、快適さ、好み、入りやすさ、バリアフリーからなされ、空間構成の水準においては使いやすさ、空間用途、建物形態、面積、空間構成、開放性、セキュリティ、空間のイメージからなされていることを明らかにしている。

第4章「実践段階におけるコミュニティ空間の検討と変遷」では、3章に引き続き12件のコミュニティ空間の現地調査とコアメンバーに対するヒアリング調査に基づき、各コミュニティ空間の実践状況と改修・修理などの変遷とその理由を検討している。その結果から、継続的に利用している10件のコミュニティ空間において、改修工事や空間の変遷を把握し、空間計画の段階と同様に使いやすさや快適さについての検討が継続して確認している。加えて、破損への対応、事後の寄付行為への対応、コミュニティ空間での活動に必要な環境的な快適性に関する追加整備が存在することを指摘するとともに、計画段階に想定された主要な空間の性格の他にも、空間の利用や空間での活動内容がより多様な性格を帯びていることを明らかにしている。

第5章「コアメンバーの経験・参加動機・活動意義にみる空間整備の意義」では、2、3章で対象としたコミュニティ空間に企画段階から関わるコアメンバー28人へのアンケート調査に基づき、コミュニティ空間での活動に参加した動機と、現在活動している意義を把握し、コミュニティ空間整備の

意義について考察している。その結果から、整備提案以前の地域活動経験 5 種と、現在の活動への参加動機 5 種を抽出し、さらに、空間整備を伴う活動の意義として「地域内の人間関係の促進・増加」、「自分たちのまち・環境・場を自分たちでつくっていること」、「社会的な状態・活動づくり・ソフトを自分たちでつくっていること」、「地域・人に役立つこと」、「周りからの評価」、「個人の成長と存在」の 6 種を明らかにしている。

第 6 章「市民によるコミュニティ空間の計画要件に関する考察」では、各章の結果を整備提案の始まった段階から実践までの「整備提案以前の地域活動経験」、「地域課題の設定」、「計画」、「実践」という段階で整理し、各段階に該当する内容の検討時期の再構成を試みている。その結果から、活動組織の編成、地域課題の定義と共有、空間計画の各段階におけるコミュニティ空間の検討要件を提示するとともに、「空間の性格」と「検討内容」の組み合わせにより、コミュニティ空間の具体的な計画を支援する検討要件マトリクスを提示している。

第 7 章「結論」では以上を総括し、本論文の結論を述べている。

以上を要するに本論文は、先駆的事業における継続的な多くの試みから、まちづくりと環境整備に主体的に取り組む市民による地域課題、まちづくりの空間実践に関する認識を計画の時系列に沿って明らかにしたものであり、個別の具体的事例分析とは異なった体系的な視点を提示するものである。このことは、多様な地域課題の認識に基づくまちづくりにおいて、市民が主導的にその活動の中心となるコミュニティ空間を整備する際に、自ら詳細な検討を時間経過に従って客観的に行う方法論を提示している。従って、本論文の成果は建築計画、まちづくりにおいて貢献するところが大きく、博士（学術）の学位論文として十分価値のあるものと判断される。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。